

令和2年度自己評価結果公表シート

教育理念

- 心身共に調和のとれた『文化人』の育成
- 平和を愛し、世界の中で活躍する『国際人』の育成
- 自然と共生し、地球に生きる『自然人』の育成
- 様々な「もの」や「こと」に興味関心を持ち、主体的に学び続ける『学人』の育成

教育目標

- 自分のことを大切な存在として愛することができ、他の人の事も尊重し、一緒に生きていける人に
- 伝統や文化を大切にし、世界で活躍できる人に
- 自然の営みに畏敬の念を抱き、生かされている自分に感謝し、自然と共存しながら生きていける人に
- やりたいことを追求し、自分らしく心豊かに生きていける人に

1. 令和2年度、重点的に取り組む目標・計画

自己点検・評価の結果および学校関係者評価、保護者アンケート等も踏まえ、以下について重点的に取り組む

- (1) 子ども達の育ちに基づいたカリキュラムの検討を引き続き行い、教育・保育の充実を図る。
- (2) 幼稚園型認定こども園として教育時間終了後、長時間保育を受ける子どもが、落ち着いて、安心して過ごせるよう、検討、工夫し、環境を整える。
- (3) 園の教育・保育の思いや、取り組み内容、子どもの姿を写真等オンライン配信システムを使い、可視化して保護者に伝え、理解を深め、共有できるようにする。
- (4) 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確化し改善に努める。

2. 評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
(1)-① 子ども達の育ちに基づきカリキュラムの検討を行う。カリキュラムの更新改善を継続し、教育・保育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月全体会議を行い、次月の園全体の取り組み目標を明確にし、教職員が共通理解ができるよう取り組んだ。学年間の連携を図ることが出来るよう、各学年による取り組み状況をテーマごとに発表しあったり、教職員からの提案によるテーマに基づいて意見交換をするなどし、それぞれが積極的に会議に参加し、意識を高められるよう取り組んだ。 ・各学年ごとに毎月カリキュラム会議を実施し、子どもたちの発達や興味関心に則して次月の保育が行えるよう話し合い、カリキュラムの更新、改善を行なった。 ・保育者は全体会、学年別カリキュラムを元に、週案、日案を作成し実践する。その後、実践、反省、課題解決を次への保育にいかし、PDCAサイクルを意識しながら改善に生かした。
(1)-②	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気付きや興味、関心を引き出し、主体的

<p>それぞれの学年で経験してほしい活動を育ちや興味に従って考え、子どもの気づきや興味関心を引き出し、主体的な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整える。</p>	<p>な遊びが広がるよう、子ども自身が選択できる場面や環境を整えた。そのために、保育者が子どもたちをよく観察し、思いの把握に努めると共に、子どもが自ら興味を持ち取り組めるよう、環境の設定に様々な工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがそれぞれの興味や発見、気づきなどを発表し合ったり話し合ったりする時間を持ち、子ども達からの発信を大切にできるようにした。子どもたちの興味や関心が広がるよう、保育者同士も考え話し合う時間を持ち、環境を整えられるように取り組んだ。 ・一人ひとりの子どもの課題を保育者がとらえ、それぞれの今ある姿からの一歩前進を目標に、子どもへの指導をする。また、保護者と保育者がその課題の共通理解をし、子どもとともに取組めるようにした。
<p>(2) 幼稚園型認定こども園として教育時間終了後、ファミリールームの長時間保育を受け、落ち着いて過ごせるよう、保育の内容、環境について検討、工夫し、安心して過ごせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育時間終了後、異年齢の混合クラスで過ごす子ども達が安全に落ち着いて過ごせるよう、保育時間、教育時間それぞれの担当教諭が子どもの様子を伝え合うようにする。そのことにより、それぞれの担当教諭が子どもの理解をし、関わる大人皆が同じ思いで子どもの育ちに関われるようにした。 ・教育時間とは異なり、さまざまな年齢の子ども達が集団で過ごすため、同じクラスになるメンバーの構成を担当教諭間で話し合い、色々な子ども達と触れ合いよい関係を築けるよう、クラスのメンバーを定期的にかえるようにした。 ・教育時間終了後14時から18時半までの保育であり、早朝から園で長時間を過ごす子ども達が、ゆったりとした家庭的な雰囲気のもとで過ごせるよう、活動の内容や環境を工夫検討した。 ・日頃より子どもの様子の伝え合いなど必要なことを話し合う機会を持つ。また、早朝、午後のファミリールーム担当者全員が集まる会議を週1度もうけ、子どもの様子、保育の内容、環境等について話し合えるようにした。
<p>(3) 園の教育・保育の思いや取り組み内容、子どもの姿を写真等オンライン配信システムを使い、可視化して保護者に伝え、理解を深められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・従来より子ども達の活動や様子を写真に撮り、子ども達が自分たちでコメントをつけて活動を説明する張り出しポスターを作ったりしていたが、コロナ禍で園に保護者が来る機会が持てないことや、バス通園の保護者には伝えにくいという状況があった。そのため、活動の様子を写真やコメントを交えて可視化したものを、オンライン配信システムを使い配信した。そのことにより、子ども達の姿、活動の内容、教育・保育活動の思いの理解をしてもらえるよう、また、家庭で子どもと共通の話題で話ができる機会を持ってもらえるよう取り組んだ。

<p>(4) 自園を多視点で客観的に見直し、職員同士の共通の理解を図り、課題を明確化し改善に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを全職員が読み、保護者の思いを理解できるようにしている。取り組める事柄に対して話し合い、必要な改善を図れるようにした。 ・オンライン研修等で、他園教職員と意見の交換をし、教職員が客観的に自園について考えられる機会を持った。
--------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和元年度末より緊急事態宣言が発令され、全国で休校・休園の措置がとられるなど、これまでにない年度始めとなった。子ども達を園に迎えることができない状況の中、子ども達とつながり保育を行える方法を模索した。家庭にいる子ども達に向けての保育動画を作成、配信したり、時期をずらして入園の節目を祝える機会を持つなど、試行錯誤しながらその時々に行えることを行った。不安な環境の中、家庭で過ごす期間の長かった子ども達が、徐々に園生活の流れを取り戻し、新しいクラス、先生、お友達に徐々に慣れていくためにも、少人数ごとの分散登園から保育が再開したことは、とても良かったと感じる。また、保育者にとっても、それぞれの子ども達の様子を知り、じっくりと関われる良い期間だったと思われる。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため家庭で過ごすさなければならなかったことや、日々の園生活においても取り入れられた感染予防のための様々な対応が、子ども達の心や成長にどのような影響を及ぼすのか、ということが懸念された。感染症の予防対策をとる一方で、子ども達の育ちに及ぼす影響を最小限にできるよう、職員間で話し合い、できることの検討を行った。また、子ども同士が距離をとれるような活動、日々の消毒作業、子ども達の教育・保育活動を止めず、どのように行っていくか、行事は行えるのかなど、新型コロナウイルス対策に翻弄された一年であった。

出来得ることを考え、検討する中、子ども達の育ちにとって本当に必要なことは何か、そしてそれを行える方法は従来通りの形でも行えるのではないかとということに気づけた一年でもあった。

とよなか文化幼稚園では、保護者の方にも園に関わっていただきたいという思いから、保護者会や園の活動への参加の機会を設けている。保護者へのアンケートからも、保護者会や園の活動へを通じ、子どもだけでなく保護者同士も親しくなることができること、子ども間でのトラブル等、出来事に対しても互いに声をかけやすくなっていること、困った時に助け合うことのできるネットワークができ心強く感じていること、などの良い面を感じておられる方が多いと知る事ができた。反面、今までのように保護者が園に来て、園や子ども達の様子を知ったり、教育・保育の活動、保護者会の活動に参加する機会がなくなり、どのように園や子ども達の様子を伝えていき、保護者の園理解を深めていくかということが大きな課題となった。

そのため、従来より行っていた、子ども達の活動や様子を写真に撮り、子ども達が自分たちでコメントをつけて活動を説明する張り出しポスターを、オンライン配信システムを使い、可視化して保護者に配信し、伝えるようにした。

そのことにより、子ども達の姿、活動の内容、教育・保育活動に対する理解を保護者に対して広く深く伝達することができた。また、家庭で子どもと共通の話題で話ができる機会を持ってもらえるようになったと感じている。

コロナ禍により子どもも、保護者も、職員も園も、共に不安や心配の尽きない1年であったが、「みんなの先生で、みんなの子どもを」（職員皆で、子ども達を見守り育ちを支える）という当学園の思いを大切に、様々な視点から一人ひとりの子どもの課題をとらえ、それぞれの今ある姿からの一歩前進を目標に保育に取り組んできた。また、子ども、保護者、先生達、関わる人皆の安全と健康を守るための園の考えや対応について、保護者も理解し対応に協力してくださった1年であった。子どもを育てるとということについて、「同じ思い」

を持ちながら保護者と協力し合う事ができたことは、子どもの育ちに良い影響を与え、大変ありがたく感じている。

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルスへの対応が必要であるが、幼稚園と保護者、また保護者同士が、子どもを中心にして良い関係が作っていけるような活動や方法を改善し学び続ける幼稚園でありたい。

令和4年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和2年度 学校評価について

学校評価に携わらせていただき誠にありがとうございました。
とよなか文化幼稚園の思いときめ細やかな対応がしっかりされていることに
安心感と感謝を感じる貴重な時間となりました。ありがとうございました。

評価項目（1）-①

全体会議で職員全員が取り組み目標を共通理解しておられること、またその会議内容もとてもきめ細やかにされていることに安心感を感じました。普段、園で教職員の方々の動きを見ている、それぞれが他の学年や、細部まで目を配り対応されていることが伺えます。「神は細部に宿る」と言いますが、各学年のカリキュラム会議なども細部まで拘り改善に努めておられます。

評価項目（2）-②

園で大切にされている子ども達の『主体性』をクラスだより、がんばり表にも表れていました。

また登園した際にも、先生方から色々と息子のことを聞きますが、その際にも主体性を大切にされていることが良く伺えました。運動会やイベントなどでもコロナ禍の中、色々と制限がつく状況ではありましたが、何を決める際にも自分達で話し合いを通じて決定するプロセスをされていることに、とても共感しておりました。

評価項目（2）

異年齢混合クラスで過ごすファミリールームがとても良い影響を子ども達に与えていたと思います。年長を見て刺激を受け、年少を見て気遣いを覚え、それぞれの学年に良い刺激があったと思います。

また先生方の情報共有の質が高さが、子ども達が安心して過ごす時間を確保につながっていた事が伺えます。

評価項目（3）

コロナ禍に対応してオンライン配信で子ども達の様子が見れるようにすることはとても良かったと思います。自分のタイミングで見れることも保護者にとっては良かったのではないのでしょうか。

評価項目（4）

どの項目でも感じていたことですが、『全職員で、全園児を』みるということ、また主体性を大切にすることが様々な場面で実践されており、意見交換をされる環境があり、改善を図る為の環境が整っていると感じました。

令和4年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和2年度 学校評価について

先日は学校評価委員会に参加させていただき、ありがとうございました。先生方からの御説明をお伺いし、また詳細な資料を拝見させていただくことで、子供たちが日々先生方のきめ細かな保育の中で過ごしていたことを、改めて感じることができました。

《評価項目1》

子どもの育ちに応じて、月案・週案・日案を作成され、それを実践するだけでなく、実践後の振り返りも行われており、次にいかす工夫をされていました。また先生方が計画された案だけでなく、子どもたち自身の主体性も尊重されるよう取り組まれており、子供の目線に立った保育を実践されていると感じました。

《評価項目2》

異なった年齢の子供たちが安心して過ごすことができるようにクラス編成が配慮され、また子供たちの情報については担当の先生同士での引き継ぎが丁寧になされ、伝え忘れがないように気を配られていると思いました。

《評価項目3》

以前は手書きで作成されていた毎月のクラスだよりやシール帳へのコメント、保育の様子を綴ったポスターも、今ではデジタル化され配信がスムーズになされるようになりました。手書き好きの私にとっては少しさびしい一面もありますが、コロナ禍で園に足を運ぶ機会が減った今、子供たちや園の様子を知る手段として時代の流れに沿った形だと思いました。

《評価項目4》

園外での研修にも積極的に参加され、その内容について研修レポートを作成し他の先生方と共有できるようにされていました。また園の行事等についての保護者からの感想・アンケートについては全ての先生が目を通されているとお伺いし、驚きとともに感銘を受けました。

これらかも「とよなかぶんか幼稚園らしさ」を失わず、子供たちだけでなく保護者にとってもかけがえのない、魅力あふれる幼稚園であり続けて欲しいと願っています。ありがとうございました。

令和2年度 学校評価について

学校関係者評価委員会に参加させていただき、ありがとうございました。
とよなか文化幼稚園の教育理念・教育目標、令和2年度に重点的に取り組まれた目標・計画について、たくさんの記録や資料と共にお話をうかがいました。
卒園した今、改めてとよなか文化幼稚園の考えや先生方のきめ細やかな日々の対応を感じることができ、とても貴重な時間となりました。
つきましては、以下に各評価項目に対する評価を記させていただきます。

評価項目(1)-①

毎月全体会議を開き、保育者だけでなく教職員全員が次月の取り組みについて共通認識を持てるよう取り組まれていました。また学年間の連携を図るため、教職員の皆さんが積極的に参加できるような仕組みも作られていました。

それを受けて各学年でのカリキュラム会議や月案、週案、日案作成といった年齢やクラス、個人に合わせたカリキュラムが生まれ、実施、反省、課題解決を次の保育にいかすPDCAサイクルを意識した改善活動が行われており、教育・保育の充実を図られていました。

評価項目(1)-②

とよなか文化幼稚園では先生方から「子どもたちと話し合って決めました。」子どもからは「みんなでお話をして決めたの。」という話を良く耳にします。時間がかかり大変な対応だろうと思っておりましたが、幼稚園が大切に考えられている子どもが主体的に考え、行動できるような環境を整えられていたからこそ出来るものだったと感じました。

子ども一人ひとりに時間をかけ観察し、理解し、課題を捉え、それぞれに合わせた目標を保護者と共有しながら、親子ともに学び成長出来るような仕組みを作り実施されてきました。

評価項目(2)

幼稚園型認定こども園としてファミリールーム利用の子どもたちの保育については、教育時間とは異なり異年齢の集団で過ごすこと、保育時間が異なること、担当教諭が多数いることなど様々な理由から、教諭間の伝え合いを重視されてきました。担当者全員が参加する会議を週1度設け、子どもを理解し係る担当者全員が共通の思いを持って保育出来るよう取り組まれていました。

また子どもたちが安全に落ち着いて過ごせる環境作りのために、子どもの様子に合わせてグループ分けを行うなど保育内容も工夫されてきました。

評価項目(3)

令和2年度は大きな不安を抱えてのスタートでした。

その中で導入されたオンライン配信は、幼稚園との繋がりを感じられる大きな存在でした。休園時はそこから流れる先生方の姿に、分散登園が始まってからは感染症対策をしつつ活動する子どもたちの姿に、幼稚園に行くことが出来ずともその場を感じ安心することが出来ました。今までと変わらず保護者に寄り添った形で新しいコミュニケーションツールを積極的に導入されていました。

評価項目(4)

各イベントでの感想を全職員が読まれ、コメントや赤線がつけられているのもありました。保護者の思いを理解してくださっている姿を感じました。また保護者から上がった意見に対しても改善するよう取り組まれていました。

そして様々な研修を多くの先生が受けられており、客観的・多視点で幼稚園について考えられていました。

長男が年中時に転入させていただいてから7年間、子ども3人がお世話になりました。その間もずっと変わらず「みんなの先生で、みんなの子どもを」という幼稚園の思いをたくさん肌で感じてきました。そして安心信頼して子どもたちを送り出してきました。保護者に寄り添う細やかな対応は変わらない一方で、その時その時に合った柔軟な対応で変化を続けておられます。それは幼稚園が学び続けている証だと感じました。

また子どもだけでなく、親もともに学び続けてほしいというお話も強く記憶に残っています。入園式や卒園式で園長先生がお話される内容に毎回心打たれ、その都度自問自答してきました。未熟で至らない自分が浮かぶことばかりですが、これを続けていくことが私自身の学びになると思っています。

今後もさらなる教育・保育の充実と、とよなか文化幼稚園のご繁栄を心より願っております。

令和4年3月
とよなか文化幼稚園保護者

令和2年度 学校評価について

この度は、学校評価委員会に出席させていただきありがとうございました。
先生方皆様が園の教育理念に基づき、日々子供達に真摯に向き合ってくださいている事や新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態においても、子供達の安全安心を最優先に可能な範囲で様々な取り組みを行っていただいた事など、改めて深く知る貴重な機会となりました。

評価項目(1)-①

毎月の全体会議をはじめ、各学年毎で毎月カリキュラム会議を実施され、カリキュラムの更新や改善を行いながら、都度それぞれの子供にあった取り組みをされています。
先生方が作成された週案・日案からも、1つ1つの事柄について非常に丁寧にも柔軟にご対応いただいていると感じました。

評価項目(1)-②

子供達一人ひとりの興味や課題等を全員の先生が把握、情報共有してくださっており、子供たちの興味や関心を引き出し、主体的に行動・発信できるような環境づくりにご尽力いただいていると感じました。この事からも全教職員が園児一人ひとりの先生であるという園の方針が全ての先生に深く浸透している事を改めて実感しました。
また、子供達が今ある姿から一歩前進できるよう子供の課題等も保護者としっかりと共有してくださっています。

評価項目(2)

教育時間外のファミリールームにおいては、教育時間とは異なり様々な年齢の子供達が集団で過ごしやすいう、また家庭的な雰囲気やゆったり過ごせるように、メンバー構成やメンバー替え等よく工夫されており、難しいながらも先生方の日々の伝達等を大切にされています。

評価項目(3)

新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者が従来のように幼稚園に行く機会がもてなくなった中、YouTubeやGoogle Classroomを使って保護者が少しでも子供の園での様子を知れるよう工夫してくださったり、オンラインを使用した懇親会を開いてくださるなど、時代や状況に合わせた対応をされています。

評価項目(4)

定期的に保護者へのアンケートを実施されており、保護者の意見を園全体で把握し、改善に努められています。
また、オンライン研修等では他園教職員との意見交換等を行い、自園について客観的に捉える事にも取り組まれています。

在園中は大変お世話になり、ありがとうございました。

幼稚園では色々な先生方が娘の名前を呼んで挨拶をしてくださって、園全体で一人ひとりに向き合ってくださっている事を体感じ、親子ともに安心して過ごす事ができました。

また、子供の一人ひとりの個性を大切に充実した保育を行っていただきました事に感謝申し上げますとともに、今後のとよなか文化幼稚園の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。